

# 令和6年度 本野小学校 学校自己評価報告書

\* 3. 4以上(太字), 3未満(太字, 斜体)

項目	番号	評価内容	児童	地域	保護者	教職員	平均	評価	増減
やさしく (徳育)	1	いじめや差別、不登校のない集団づくり	3.63	3.62	3.13	3.50	3.42	A	3.42
	2	あいさつ・言葉遣い(マナー)、規範意識(ルール)などの継続的な指導	3.58	3.43	3.17	3.30			
	3	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じた豊かな心を育む指導	3.58	3.58	3.28	3.40			
	4	個人面談・教育相談等を通じた児童理解と親身な指導	3.38	3.42	3.16	3.50			
かしこく (知育)	1	基礎・基本を身につけさせるために指導の工夫改善	3.74	3.22	3.26	3.00	3.34	B	3.34
	2	問題解決的な学習など、子どもを主体者とした授業づくり	3.47	3.64	3.36	2.90			
	3	遅れがちで、個別に支援を要する子どもへの対応	3.43	3.18	3.12	3.20			
	4	学年に応じた家庭学習の習慣づけのための継続的な指導や励まし	3.73	3.60	3.28	3.30			
たくましく (体育)	1	外遊びや体力づくりについての継続的な指導や励まし	3.57	3.50	3.03	3.30	3.34	B	3.34
	2	望ましい食習慣づくりのための給食指導を中心とした食育	3.58	3.45	3.36	3.10			
	3	健康増進のための望ましい生活習慣についての継続的な指導や励まし	3.45	3.33	3.29	3.10			
家庭との 連携	1	各種連絡、家庭訪問、学級分会などによる家庭との相互理解・連携			3.05	3.30	3.25	B	3.25
	2	各種発行物、ホームページ、メールなど、学習や諸活動の様子についての発信			3.41	3.30			
	3	家庭学習や家庭読書メディアコントロールについての継続的な働きかけ			3.49	3.20			
	4	懇談会や保護者との面談においての家庭教育を考えるきっかけづくり			3.19	3.10			
教育環境	1	施設の定期的点検と処置、日々の継続的な安全指導			3.31	3.36	3.30	B	3.30
	2	校舎内外の清掃、整理整頓、学校の美化			3.42	3.18			
	3	季節に応じた掲示物の工夫など、温もりのある学習環境づくり			3.30	3.20			
教職員	1	「どの子どもも愛し、どの子どもも伸ばす」教育愛と使命感を持った職務遂行				3.36	3.17	B	3.17
	2	「同僚とともに研鑽に励む」意識での研修と授業実践				3.30			
	3	P T A活動等への協力と、「信頼される教師」であることへの努力				3.00			
	4	職員相互の連携・協力を意識した、一体感のある職員集団づくりへの参画				3.00			
子供の姿	1	あいさつや思いやりの言動ができる「やさしく支え合い、思いやりのある子」		3.69	3.24		3.44	A	3.44
	2	授業・家庭学習に進んで取り組む「かしこく学び合い、確かな学力をつける子」		3.64	3.27				
	3	自他の生命を大切に、家族や地域を大切に「たくましく高め合い、郷土を誇りに思う子」		3.67	3.19				
	4	子どもは、毎日楽しく学校に通っている。			3.36				
学校満足度	児	本野小学校は、毎日楽しく、いい学校だ。	3.74				3.47	A	3.47
	地	本野小学校は、「地域が応援したい」いい学校だ。		3.80					
	保	本野小学校は、「子どもを通わせたい」いい学校だ。			3.15				
	職	本野小学校は、「働きがいのある」「働きやすい」学校だ。				3.18			

## ■自己評価のまとめ(分析・課題・対策等)

○ やさしく  
 ・成果: いじめを許さない、見逃さない、人を大切にする指導が浸透してきている。気になる児童については本人及び保護者との面談等、迅速丁寧な対応により不登校児童が減ってきた。  
 ※ 生活指導主任を中心に連携した取組ができた。  
 ・課題: 挨拶・言葉づかい・規範意識を高める指導は今後も指導が必要である。  
 ・対策: 自分や友達の名前を大切にする(呼び捨てにしない)、「ありがとう」「ごめんなさい」をきちんと伝える、学校や社会のルールを守るなど、自他を大切にする指導を徹底する。

○ かしこく  
 ・成果: 日課や教育課程の見直しにより児童と向き合う時間を確保することができた。その結果、教材の工夫やICTの活用等で、児童が主体的に学びに向かう姿が多く見られるようになったことが反映されていると捉える。  
 ・課題: 家庭学習の習慣化については二極化傾向である。  
 ・対策: 保護者への啓発を促し、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を目指す。また、スキルタイムの成果を検証し、学力向上につなげていく。来年度は複式学級編成により職員数減になるため、さらに日課や教育課程の見直しを行い、教師が児童と向き合う時間の確保に努める。

○ たくましく  
 ・成果: 体力づくりについては、通年の外遊びやサーキットトレーニング(屋内・屋外)等が浸透してきた。  
 ・課題と対策: 望ましい食習慣と給食指導については家庭との連携を図り、食育の推進に努める。また、学校保健委員会で体力テストの結果や食育の状況を知らせ、体力の保持増進を図る。

## ■学校関係者評価の意見

○職員数に応じた学習法や行事内容と、苦慮されているのではないかと案じている。遠慮無く地域や保護者に協力を要請してほしい。本野は小学校を中心とする地域。協力は惜しまない。  
 ○菊づくりは、大変かもしれないが、教職員も育ててほしい。  
 ○今年度、学級園の栽培活動に参画した。草取りは子供にもさせてほしい。みんなで学校環境を整える意識を育ててほしい。  
 ○学校評価アンケートの内容が地域の者には分かりにくいものがある。

## ■対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○菊栽培は児童数や教職員数の減少に伴い、鉢数を減らして、地域の方や保護者に協力を得ながら持続可能な取組を行っていく。  
 ○学級園の草取りは、学習の一環として計画的に実践し、必要に応じて保護者や地域の方にも協力をいただき、連携して環境整備を行っていく。  
 ○学校評価アンケートの内容を精選し、分かりやすくする。